古殿八幡神社例大祭 笠懸（かさがけ）・流鏑馬（やぶさめ）奉納

よいやさ！ 掛け声を発して
馬場をけり出す人馬。
白扇（はくせん）が空に投げられると
沿道から歓声があがり
一の的、二の的、三の的を射抜いて
狩装束の役者が駆け抜ける。
一矢一矢に五穀豊穣の祈りを込めて。
「流鏑馬の里ふるどの」の秋が
4年ぶりに帰ってきます！

中世武士の気概を伝える ふるどのの笠懸・流鏑馬

古殿八幡神社の笠懸・流鏑馬の起こりは、創建から130年後の鎌倉時代。将軍・源頼朝公から社領地を賜った竹貫の領主が、鶴岡八幡宮で奉納される笠懸・流鏑馬にならい、領内の武士たちによって神事として奉納したのが始まりです。

神社の鎮守域である元の十三カ村（古殿地区10ケ村、鮫川地区3ケ村）は竹貫郷と呼ばれ、古くは修験の地であり、戦国時代には勇猛な弓兵集団を輩した『竹貫衆』ゆかりの地。武運や弓矢の神様である八幡様を篤（あつ）く信仰してきた氏子にとって、笠懸や流鏑馬を奉納する例大祭は年に一度の特別な行事です。「2019年は台風19号によって急きょ中止に、翌2020年以降はコロナ禍での中止が続きました。皆さんが『古殿といえば笠懸・流鏑馬』と楽しみにしてくださる神事ができず残念でしたが、この秋はようやく再開できます」と宮司の竹貫洋幸さん。3年間の空白を埋め、830年の伝統を守り繋ぐため、氏子の皆さんとともに準備に追われているところです。

830年の歴史が香る 古式ゆかしい神事の数々

今年の例大祭は10月7日（土）・8日（日）。例年、祭りを伝えるニュースでは、人馬一体で駆け抜け的を射る一瞬の様子がクローズアップされがちですが、現地では土曜の宵祭りと日曜の本祭りの2日間、様々な神事が粛々と執り行われます。

準備や運営は、町内 10区から毎年3区が持ち回りで、役者（射手）や役者添い、口取り（兼馬係）、馬場道整備を行う奉仕者などの役割を分担。例年では宵祭にそれぞれが正装し、出陣式や参拝、お籠りと続きます。そして、大平川での沐浴や清祓いなどの神事が行われ、祭典行列の出発は、日曜午前10時。秋風に御旗がゆらぎ、古式装束に身を包んだ一行が、大平川にかかる神橋から赤鳥居をくぐり参道をまっすぐに進む古式ゆかしい光景は、まさに一見にしかず。数か月前から当日に至るまでの準備や騎射訓練を含め、笠懸や流鏑馬の迫力ある演技は、地域の人達の篤い思いと、830年の伝統に従った厳格なしきたりに支えられているのです。

▲歴代の祭りの様子

馬場道のすぐ傍で 迫力ある武技を体感！

笠懸や流鏑馬は、中世武士の鍛錬のための武術でしたが、かつては八幡様に捧げることで武運を祈願し、いまでは平穏な暮らしや五穀豊穣を祈るものとなりました。

「笠懸は社務所の屋根に向けて鏑矢を放ち、流鏑馬は250mの馬場を疾走し馬上から3つの的を射当てます。流鏑馬の弓は大弓、番（つが）える矢には独特の矢尻がついています」と竹貫さん。使った記録はないものの、かつて馬場終端の川縁には「腹切堂（はらきりどう）」があり「的を外せば命はない」とされるほど緊張感のある騎射が古殿の特徴。一方で吉凶を占う意味もあったとされ、鏑矢や役者が放る白扇は、氏子が競い拾い合う縁起物です。

4年ぶりとなる今年の例大祭。鎮守の杜の清浄な気のなかで神様にお詣りし、砂煙をあげて疾走する人馬の迫力ある武技を間近で体感し、一年の感謝と平穏をお祈りしましょう。

神事に登場するのは昔ながらの和種馬

古殿八幡神社

1064年、奥羽に勢力を張る安倍氏討伐の命を受けた源頼義公が、この地で京都男山八幡宮（石清水八幡宮）に祈りを捧げ勝利したことを記念し創建。隠居した竹貫の領主（古い殿様）が代々この地に住んで神社を守護しており、古殿の地名の由来になったとも言い伝えられている。

28代目宮司 竹貫 洋幸さん

笠懸・流鏑馬は、落雷や川の氾濫などで度々中断されながらも氏子の篤い信心によって再興されてきました。古殿八幡神社は家内安全、安産祈願など広いご利益で、氏子以外の皆様の御参詣も多い社です。祭礼当日は、鎮守の杜の自然を楽しみながら神様にお詣りいただき、氏子とともに神事を楽しんでいただければと思います。

古殿八幡神社　古殿町山上古殿38　TEL0247-53-2439

今年の役者の一人　曲山 忍さん

初めは怖いという気持ちが強かったのですが、練習を重ねていくうちにできることが多くなり今では楽しみが増えてきました。間近でみられる迫力のある流鏑馬を是非見にきてください。

直垂（ひたたれ）をまとい、射籠（いごて）手と行脚をつけ、烏帽子の上に笠をかぶり妻の帯で太刀を負う伝統の装束▶

役者は当番区から既婚の男子が選ばれ、週一回、三株高原で本番さながらの騎射を繰り返し技を磨いていきます。

やぶさめフェア2023

10/7（土）・8（日）　場所：古殿八幡神社

40近くの露店が軒を連ね、獅子舞や祭典行列、野点、奥州古殿流鏑馬太鼓など多彩な催しで伝統の神事を盛り上げます！

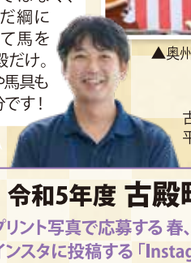
タイムスケジュール

7（土）宵祭	AM11:40～ 流鏑馬大会［秋の陣］開会式 PM 2 :00～ 大道芸人ちゃむらいショー PM 3 :00～ 宵乗り〈神事〉 PM 3 :30～ 笠懸・流鏑馬〈神事〉 PM 4 :00～ 流鏑馬太鼓 AM 9 :00～ PM4:00 露店営業
8（日）本祭	AM10:00　祭典行列出発 AM10:00～ PM2:00 野点 AM11:30～ 流鏑馬流し踊り PM 0 :30～ 流鏑馬太鼓 PM 1 :30～ 笠懸・流鏑馬（1回目）〈神事〉 PM 2 :00～ フラダンス PM 2 :30～ 大道芸人ちゃむらいショー PM 3 :00～ 笠懸・流鏑馬（2回目）〈神事〉 その他／剣道大会（やぶさめアリーナ） 弓道大会（弓道場） AM 9 :00～ PM4:00 露店営業

ココに注目！

笠懸・流鏑馬で役者が次々と疾走する時間はわずか。役者の勇姿を見逃さず、最高のアングルでの撮影を楽しんでください！
鐙（あぶみ）ではなく、木棒を結んだ綱に足指をかけて馬を操るのは古殿だけ。古式の装束や馬具も見ごたえ十分です！

▲奥州古殿流鏑馬太鼓。圧巻のパフォーマンス！



古殿町役場産業振興課
平松 洋昭さん

こちらもチェック！

令和5年度 古殿町フォトコンテスト

プリント写真で応募する 春、夏、秋、冬の「古殿の四季部門」
インスタに投稿する「Instagram部門」

応募締め切り／令和6年1月31日

桜や山々の風景、文化財、家族の笑顔、仲間とのふれあいなど、あなたの撮った写真をフォトコンテストに応募してみませんか。

町では武技の継承を目的とした**流鏑馬大会**を春・秋2回開催。秋の陣は「やぶさめフェア」の宵祭とあわせて開かれ、町内外から約20名が武芸を競い合います。

お問合せ　古里・夢・ふるどの実行委員会
古殿町商工会 TEL0247-53-2465
古殿町産業振興課 TEL0247-53-4620